

ほりだし市も無事に終わりました。今年最後の大きな活動は11月23日のコンサートです。ぜひ成功させましょう。

お知らせ

- ・ヴォーリズ六甲山荘一般公開最終日 11月20日(日)
- ・東日本大震災被災者支援コンサート 11月23日(水・祝) カトリック夙川教会
- ・ヴォーリズ六甲山荘大掃除&打ち上げ 11月25日(金)
- ・歴史的建築物研究会再調査 12月3日(土) 芦屋市
- ・町並み研究会～和歌山 12月11日(日)～12日(月) 天神崎ほか

予告1

カトリック夙川教会のコンサートへでかけましょう!

東日本大震災被災者支援コンサートの第2弾は**森祐理さん**の出演で会場はカトリック夙川教会です。森さんはご自身の弟さんを阪神淡路大震災で亡くされたこともあり、国内外の災害被災地への支援活動を積極的に行っておられます。東北にもすでに何度も足をはこんで支援物資を届け、歌で応援をしておられます。

コンサートのご案内とチケットはすでに皆さんのお手元に届いていることと思います。現在の申し込み数は100名を越したところで、定員の250名にははるかに届きません。ぜひ多くの方が来られますよう、お知り合いに声をおかけくださいますようお願いいたします。

日時: 2011年11月23日(水・祝)

場所: カトリック夙川教会

参加費: 2,000円

予告2

町並み研究会～和歌山

先月号でご案内しましたが、3月に予定していたながら震災の影響で延期した和歌山への一泊旅行を12月に実施します。日本のナショナル・トラスト運動の草分けである天神崎では玉井専務理事のお話を伺い、磯にも降りて生き物の宝庫である天神崎の魅力を体体験します。なお「天神崎の自然を大切に作る会」と相互に賛助会員となり、友好関係を結んでいくこととしています。続いて醤油発祥の地湯浅では伝統的建造物群保存地区を地元ガイドの案内で歩き、漆器の町黒江では漆器の製造工房を訪ねます。全行程を貸切中型バスで移動します。

暮れの忙しくなる前に和歌山でのひと時を楽しんでみませんか。人数にまだ余裕があります。ぜひご参加ください。

月日 2011年12月11日(日)～12日(月)

宿泊 白浜・梅樽のホテルシーモア

ご報告1 長瀬信博イラスト作品展 10月8日(土)～14日(金) 六甲山荘

創立以来私たちの冊子やプログラムをデザインしてくださっている長瀬信博さんのイラスト作品が並びました。スケッチ、原画など魅力あふれる色と線の作品ばかりです。見ていると、あんな事もあった、こんな事もしたと思い出されて楽しかったです。初日には畑儀文さんと春木浩子さんの演奏によるオープニングコンサートがあり、大勢の方が参加されました。



ご報告2 てづくり工房ほりだし市 11月3日(木・祝) 草志舎

皆さんのご協力でにぎやかなほりだし市となりました。今回は特に被災者の支援のため東日本の物産を扱い、日頃お目にかかれない品物もあって、好評でした。また西宮市に避難しておられる被災者に案内をさしあげ、3組の家族が来ていただきました。買い物チケットをお渡しし、お昼ごはんも楽しんでいただきました。

準備・当日と大勢の会員の方々がたくさんの時間とエネルギーを費やす力仕事の活動ですが、出品してくださった皆さま、スタッフの皆さま、ありがとうございました!

東日本の物産: 笹かまぼこ、菓子(南部せんべいほか)、干し芋、干物、豆腐、クッキー、食パドレ



【コラム】

ヴォーリス六甲山荘の謎解き

清水 彬久

ヴォーリス六甲山荘は、実に不思議な建築である。会員の皆さんであればよくお分かりですが厳しい気象条件のなかでも創建当時のままの状態がほぼ保たれてきているからです。何故こんなに湿気の高い環境で傷むこともなく維持されてきたのでしょうか。それは、設計上に工夫されていること、高品質な材質が使用されていること、丁寧な施工がなされていること、築80年近くの間大切に管理されてきた等の要素が重層し相互作用されたためとも言えるでしょう。そこで、見えざる所の床下に焦点をあて、冴えた新工法が取り入れられているのを発見したお話しでもしてみたいと思います。

ヴォーリス六甲山荘の向かいにある神戸ゴルフ倶楽部のクラブハウスもヴォーリスによる設計です。同倶楽部の九十年誌にこのような記述があります。「今回、クラブハウス改築に際して、ヴォーリス氏の代表作の一つである旧小寺山荘（現ヴォーリス六甲山荘）を調査する機会に恵まれた。旧小寺山荘は、神戸ゴルフ倶楽部のアウト8番ホール北西に隣接する場所に建てられており、峰と峰との間の日当りや風当りの比較的穏やかな立地にあったことから、同じヴォーリス氏の建築でありながら、山の頂上にあるクラブハウスとは気象条件の違いから、傷み方が非常に少ないことがわかった。さらに、旧小寺山荘の床下を調査した際には、それが二メートルも掘られていたことを発見した。それは、ヴォーリス氏の設計の優秀さを証明することの一つであるが、その床下への配慮によっても、旧小寺山荘がこれまで傷まずに保たれてきたことが想像できた。」このように、調査結果で同じ六甲山上にある二棟のヴォーリス建築を比較して、ヴォーリス六甲山荘の保存状態がなぜ優れているかの原因を述べています。

ここで指摘されているのは、まずゴルフ場よりも立地条件が良いことをあげています。確かに風雨にさらされにくいという利点はあるでしょう。しかし、気象環境への防止対策のより重要な要因は建物の内部構造にありそうです。それが二番目の床下への配慮ということです。ヴォーリスは、毎年夏場を軽井沢で過ごし多くの建築を残しています。その軽井沢は六甲山と同じ800メートルの標高にあり、設計上山岳では湿地対策が大切であることを十二分に承知していました。その検証を試みましょう。調査では床下が2メートルの深さであることを驚嘆の眼で確認したとされていますが、実際は少し違った展開となります。私たちは、冬期に入ると床下に潜り補強作業を行ってきました。ところが建物の各所の床下は2メートルの高さがなく、せいぜい50センチ位で横ばいになって這い這いしながら移動するのが精一杯なのです。むしろ湿気対策としては現行の高さでも十分であり、むしろ別の工夫が講じられていたのが判りました。というのも冬場なのになぜか、床下の空間の居心地が悪くないのです。ひとつは、要所要所に大きな通気口があるため換気がよく新鮮な外気がほどよく入り、むしろ乾いた状態が確保されていることが挙げられます。更に、決定的な対策が施されていました。それは、当時としてほとんど前例のない床下の敷地全面にコンクリートを敷詰めた新工法を取り入れ、最大の敵である地面からの湿気を防止していたのです。この気象環境を熟知し、見えざる基礎工事に計算しつくされた最新の新技法の導入こそ、建物の健全性が保持されている大きな原因であることを確認したのでした。このようにして、謎解きのひとつが解決できたのです。

予告3

歴史的建築物研究会～芦屋市山手地区

ヴォーリス六甲山荘の一般公開が終わると歴史的建築物研究会の季節です。今シーズンの皮切りは芦屋市の山手地区をまわります。特に六麓荘では地域の歴史に詳しい住民の方のお話を伺います。阪神間でも有数の「高級住宅地」の成り立ちや変遷をたどってみませんか。

日時 2011年12月3日(土)

集合 午前10時 阪急電車芦屋川駅北側広場

参加費 会員1,000円 一般2,000円(昼食代、バス代は自己負担)

定員 25名(定員になり次第締め切ります)

昼食 すし萬(昼食代1,890円自己負担)

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

予告の予告

英国ナショナル・トラストの旅～スコットランド

第6回英国のナショナル・トラストを訪ねる旅の内容が決まりました。

月日 2012年6月10日～19日(7泊9日)

訪問先はスコットランドです。ナショナル・トラストのプロパティを中心に、ネス湖やハリイ・ポッター映画に出て来る汽車の橋など、見どころ満載の旅です。詳しくは後日ご案内しますが、この日取りをぜひカレンダーにチェックしてください。

マレニー・ガーデン



◀お薦めの本▶

谷平 理恵子

私が関西に住むようになって7年半。関西と言っても、都会とは無縁の関西の西のはずれだ。近代建築を見たり、町歩きをするのが大好きなので、電車で2時間近く揺られて都会へ出ることが多い。根っからの東京人なので、おおまかな電車の路線図が頭の中に入ってる程度の土地勘しかない。そこで、町歩きのための予備知識用として数冊本を買った。その中で、特にお勧めなのが下記の2冊だ。1冊に絞ろうかと思ったのだが、やはりどちらもはずせない。

まず最初の1冊は、

「民都」大阪 対 「帝都」東京 思想としての関西私鉄

原 武史・著

講談社選書メチエ

¥1700. - (税込)

大阪と東京の私鉄の考察から、阪急電鉄が生み出した文化圏などにふれ昔の東京と大阪の鉄道の路線図などからの都市学などが書かれている。もちろん、阪急以外の私鉄のことも書いてある。「鉄道」を軸に東京と大阪がどのような経緯で発展していったのなども興味深く読める。

そして、もう1冊は、

近代日本の郊外型住宅地

片木篤・藤谷 陽悦・角野幸博＝編

鹿島出版会

¥8400・- (税込)

執筆者＝片木篤＋池上重康＋藤谷陽悦＋鈴木博之＋牧田知子＋加藤仁美＋内田青蔵＋森仁史＋堀田典裕＋角野幸博＋石田潤一郎＋矢ヶ崎善太郎＋和田康由＋橋爪紳也＋吉田高子＋寺内信＋中嶋節子＋三宅正弘＋坂本勝比古＋杉本俊多＋砂本文彦＋土居義岳＋藤原恵洋＋高砂淳＋西澤康彦＋郭中端＋富井正憲

この本は関西だけでなく、北海道から九州、そして台湾、韓国、中国の社宅群のことまで書いてある。関西地区だと京都の北白川、南禅寺下河原、大阪の堺、香里園、池田室町、箕面櫻ヶ丘、千里山住宅地、兵庫県の雲雀丘、甲子園、芦屋、御影が取り上げられている。これらの土地がどのようにして、開発されのちの住宅地となっていたかなど当時の写真などの資料もふんだんに記載されている。鹿島出版会の本だけあって、建築に関する記述も詳しい。

2冊とも決して難しい本でもなく、むしろ読みやすく極めて資料性の高い本だ。読むまでは、ただの普通の住宅地でしかなかった町もまた別の視点で見て歩ける町に変わることを請け合いた。

<次回は小山雄次さんをお願いします>

◇◆◇おしゃべりアラカルト◇◆◇

子供・孫達との夏の日の思い出

越智 清純

私には二人の子供と四人の孫がいる。現役の頃は事業の方が忙しく、日曜祭日は殆んどテニスに夢中であった。そして六十五歳で現役の事業を娘婿に譲り、若い時からやりたかった絵をやり出した。それが描けば描く程不満足の状態、その原因は自分の基礎力のなさに気付き、七十歳で京都の駒井邸の近くにある京都造形芸術大学に入学した。本当は二年次入学で三年間で卒業するのが普通であるが、自由課題で五十号二枚の難関でなかなか通してもらえず、一年間かかり、百号二枚を卒業制作として取り組み、やっと今年三月二十日に卒業することが出来た。日頃孫達との接触の少ない私はこの夏休みに何か企画しようと考えていた所、今回の企画に娘達も賛同してくれたが、初孫である現在小学五年生の女の子だけが受験のため、朝九時から五時迄塾に通っているの、その母親と二人だけ欠席となった。次女の娘と三人の孫達・私と五人は自動車で六甲山迄行くことになった。しかし途中で孫の一人が酔ってしまい予定より三十分程遅れ、やっと皆さんと合流出来た。すぐ先生から画用紙をもらい、写生に取りかかり、私は一枚をこなすのがやっとであったが、孫達は三～四枚描けたようであった。二歳になる孫が抽象的な絵を描き、みんなを驚かしていたのが印象に残る。庭の主役をつとめる窯で焼く

ピザを大きなテコにのせられたピザを見送ってから二～三分、ほどよいこげ目のついたのが出来た。ここまで見物すると空腹も頂点に達し、みんなおしゃべりをやめてもくもくと口に運んだ。上についた苦手な青ネギもなんのその、そこにはジュースなんかいらない、水がほんとうにおいしかった。デザートケーキに至るまで、心のこめられたものばかりで、六甲の自然と手作りのものが見事に調和がとれていた。さらに、食事がすむと上の孫二人は連れだって敷地内を探検にいってくるとはりきっていく。街では見られない葉の模様。かたつむりのような樹をとらえてカメラに目を輝かせてたゞいと戻ってきた。その後六甲山の自然の説明する二人のおじさんの日頃聞けないような数々の話しに夢中になって聞き入っていた。それを帰ってから出席出来なかった父さん達に得意そうに話しをしていた。これからも子供向けの企画を期待しています。本当にありがとうございます。(写生会 8月20日)



日本の忘れられた遺産

ハンナ・イーサム

この夏は大変忙しい夏だったが、その終わりに神戸の山中で心静かな時を過ごすことができた。

神戸に来る旅行者は美しい港や多国籍の魅力ある街、おいしい神戸牛などを楽しむことだろう。けれど街の背後にある六甲山まで足をのぼす人は少ない。その地で私は忘れられない体験をした。

ヴォーリズ六甲山荘はアメリカ人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの作品である。その名はあまり知られていないが、彼の建築作品は1400にもものぼり、京都、神戸、大阪はもちろんのこと日本中に散在している。その作品は1920年代から30年代に多く作られ、その美しさは彼の人間性の反映ともいえるだろう。東洋と西洋の融和したスタイルで、公共建築から個人住宅まで幅広く手がけている。大阪心齋橋の絢爛たる大丸百貨店、スパニッシュ様式の語り尽くせない魅力の神戸女学院も彼の代表作だ。

文化遺産の保全に関心のある私は日本でもボランティアの機会を探していて、英国ナショナル・トラストと国際ナショナル・トラスト機構(INTO)の紹介でアメニティ2000協会を知った。

アメニティ2000協会は関西を中心に活動しているNPOで、その保有資産が1934年に個人の別荘として建てられたヴォーリズ六甲山荘である。ボランティアの機会について問い合わせると、清水理事長夫妻が園遊会に招いてくれた。これは東日本大震災の被災者支援の資金を集める活動である。また山荘での宿泊も許可してもらった。

山上の涼しい気候にあわせて重ね着をして園遊会に到着した私だが、会員や来場者に温かく迎えられた。早速にごちそうになったのが石窯で焼いたピザ！この窯は最近作られたばかりだが、まるで建築当初からあったかのように敷地になじんでいる。

昼食のあとはオルゴールのコンサートだった。オルゴール

.....

ルの本体はイタリア製、ロマネスク様式の豪華な彫刻が施されている。曲目は日本の歌がほとんどだった。そのうちの1曲は私の勤務する街の公会堂でよく演奏されるので印象深かった。

一日の最後には実に珍しい体験をした。五右衛門風呂だ。これは深い鉄の風呂桶で、有名な泥棒が釜茹でで処刑されたことにちなんだ名前だという。このいささか気になる由来にもかかわらず、大変気持ちのいい風呂で、私はその夜は熟睡した。

私はこうした場所の魅力にもっと触れたいと思っている。アメニティ2000協会を支えているのは会員の有形無形のサポートと寄付である。こうした歴史的資産の保護団体がよく直面するのが、世の中には支援を必要としている人々がいくらでもいるのに、なぜそんな建築などにかまうのかという疑問である。人道上の支援の重要性は十分に承知している。しかし文化的に意義のある場所を守ること、日本の豊かな自然と人の手による遺産を守ることの重要性も忘れないでほしい。それは現代の私たちを過去と結びつけるものであり、人々の共有の財産という意識を喚起するもので、私たちが支援をする価値のあるものなのだ。

ヴォーリズ六甲山荘のような場所は静謐さ、内なる平和、時を見通す力を与えてくれる。心に悩みを抱え、不安におびえる時、そこでの記憶は心を癒し蘇らせる力を与えてくれるのである。

この場所をぜひ訪ねてほしい。人に知られることの少ない場所で実に多くのことを得ることができるだろう。

<ハンナさんは今治市で教員をしている英国人で、9月23日の園遊会に参加されました>



六甲山荘の門前にて

六甲山荘だより

今年は秋の訪れが遅く、山の上でもまだストーブをつける日は少ないです。その分紅葉は遅いようで、山荘の庭では野菊が花盛り、そしてアジサイの花が赤く染まって楽しませてくれます。今年の一般公開もあとわずかになりました。残り少ない公開日を楽しみましょう。

今月はメンテナンススタッフも大活躍！駐車場の扉、五右衛門風呂のサビ、水漏れのする洗面台など、細かな修理を次々となしました。またおいでになった方はお気づきと思いますが、庭中に繁茂していたアセビを整理して、おかげで風通しのいい木漏れ日のあたるさっぱりした林になりました。来春には色々な草花が芽をだしてくれるでしょう。古い建物はいつもこまめに手をいれなければなりません。広い庭も人手がかかります。公開のない冬場は少々寒いですがメンテナンスはかき入れ時です。ぜひ皆さんもご参加ください。

* 今年の公開は**11月20日(日)**が最終日です。25日(金)には大掃除と打ち上げです。ぜひご参加ください。

会員の本のご紹介 **大阪のモダンライフ～明治・大正・昭和初期の大阪の庶民生活誌**

会員の神庭義治さんが「大阪のモダンライフ」という本を出版されました。副題のとおり明治以降第二次大戦までの大阪の人々の暮らしぶりを「天下の台所」「道頓堀」「物見遊山」「まちなみ、建物」「郊外生活」等々の切り口で紹介しています。文庫サイズで680ページという力作で、古い写真や地図なども多く、古い文献も引用しつつ、商都大阪の色と匂いが実感できる作品です。定価1,500円ですが、会員価格1,300円でお届けいただけます。ご希望の方は事務局までご連絡ください。



明治学院チャペル
ヴォーリス建築文化全国ネットワーク大会会場



ふたたび霧に包まれた六甲山荘